

英語科学習指導案

日時 平成28年6月2日(木) 公開授業Ⅱ

学級

会場

授業者



【学習者の実態】

○スピーチやプレゼンテーションなどの発表やペア・グループでの対話活動などを通して、英語で話すことに意欲的に取り組んでいる生徒が多い。3年生ではこれまで、自分の好きな言葉の紹介や自己紹介カードへの取り組みを行った。

○HSの学習で日本語でのインタビュー活動は経験しているが、英語でのインタビューは初めてである。L2での学習から、日本文化について知っているつもりでも、うまく説明できないことがあると気付いた。

【身に付けさせたい力】

- ・質問や依頼などを聞いて適切に応じること。【聞くこと(ウ)】
- ・話し相手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。【聞くこと(エ)】
- ・自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。【話すこと(イ)】
- ・つなぎ言葉を用いるなどいろいろな工夫をして話を続けること。【話すこと(エ)】

1. 単元名 LESSON 3 Rakugo Goes Overseas (NEW CROWN ENGLISH SERIES 3)

2. 単元の目標

- ①なりきりインタビューを通して、相手を意識した受け答え(相づちなどの反応とともに)ができるようにする。
- ②相手に伝わるように抑揚やジェスチャーを伴って、英語で簡単な小断をすることができる。
- ③「現在完了形」(完了用法・経験用法)を用いた文の意味・構造が理解できる。

3. 単元の評価規準

【外国語表現の能力】

- ①既習事項を活用し、相手を意識した質疑応答を行いながらインタビューを行うことができる。
- ②相手に内容が伝わるように、抑揚やジェスチャーを伴って、英語で簡単な小断ができる。

【言語や文化についての知識・理解】

- ①「現在完了形」(完了用法・経験用法)を用いた文の意味・構造を理解している。

4. 教材観

本単元のUSEでは、英語落語に取り組んでいる落語へのインタビューを読む。インタビューもコミュニケーションの一つであり、自分も相手も気持ちよく意思疎通ができることが重要である。また、インタビューの手法を通して、簡単な自己紹介や共通の話題を見つけること、また、相手の話に関連した質問やコメントをすることなど、良いコミュニケーションの取り方について学ぶことができる。題材は落語である。落語をじっくりと鑑賞したことがある生徒はほとんどいない。しかし、日本の伝統文化の良さを再確認し、それを世界に発信するための英語の重要性に気づかせたい。言語材料としては、現在完了形の完了用法と経験用法を学習する。特に経験用法は、自分の経験や相手の経験をきっかけに話を展開することができ、インタビューに有効である。

5. 単元構想

本単元では、Getで現在完了形の完了用法と経験用法を学習する。前者は日常生活で互いの状況を説明したり、確認するような場面で使用できると考える。しかし、インタビューでの使用にはあまり有効ではないため、Getでの練習にとどめ、今後の学習で繰り返し使用させ、習熟させていきたい。後者については、インタビュー場面での使用が有効な表現であるため、Getの練習でもインタビュー的な活動を仕組む。単に質疑応答を行うだけでなく、相手との対話を楽しめるよう、コミュニケーションに必要な表現や相づち等を確認させながら、まとめの「なりきりインタビュー」に活用させたい。

題材となっている落語については、実際に大島希巳江さんの英語落語の映像を見せ、落語の特徴や演じる際のポイントを確認させ、英語の小断を演じることに挑戦させたい。自国の文化に慣れ親しみ、その魅力や特徴などを体験を通して知ること、発信するための内容が生徒の中に形成される。また、効果的な対話の手法を学ぶことで、より良いコミュニケーションを図ることができるようになることを考える。

6. 単元の指導計画及び評価計画

時間	主な学習内容と学習活動	評価 規準	評価方法
1	<p>○本単元で学ぶ題材や身に付ける文構造について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とびらのページやスライド等を用いて、オーラルイントロダクションを行い、本単元で学習する題材について興味を持たせる。 ・本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・本単元のゴールの表現活動を確認する。 ・学習履歴シートの Before Lessons に取り組む。 		
	<p>○対話文の内容を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題を確認し、健とエマの対話を理解する。 ・教科書本文を音読し、対話の続きを考える。 		
2	<p>○「現在完了形」(完了用法)を用いた文の意味・構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久美とラージの電話の対話を聞き取る。 ・完了用法を用いて、行動や状況を説明する練習を行う。 	言知①	後日ペーパーテスト
3 本 時	<p>○「現在完了形」(経験用法)を用いた文の意味・構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験用法を用いて、自分の経験を伝えたり、相手の経験を尋ねたりする練習をする。 ・既習事項を活用して、互いの経験を尋ね合うインタビューを行う。 	言知①	後日ペーパーテスト
4 5	<p>○英語落語についての説明を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文を音読し、暗唱する。 ・対話を聞いて内容を理解する。 ・英語の落語を視聴する。 ・教科書以外の落語の小断を英語で読む。 		
6 ～ 9	<p>○なりきりインタビューを行う(4時間扱い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大島さんへのインタビューを視聴し、インタビューについての概要をつかむ。 ・インタビュアーの視点に立ち、教科書のインタビュー記事を読む(工夫)。 ・インタビューを受ける側の視点に立ち教科書のインタビューを読む(工夫・気づくこと)。 ・インタビュー項目の整理(見直し、練習) ・「なりきりインタビュー」の撮影を行う。 	表 ①②	練習の観察 I Cレコーダーの音声 V T R
10	<p>○文法のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在完了形(完了・経験)の文構造や使い方を確認する。 ・学習履歴シートの After Lessons に取り組む。 	言知①	後日ペーパーテスト

7. 学びの本質に迫る指導について

○コミュニケーションツールとして実際に使用できる実感を持ちながら知識を意欲的に習得する生徒の育成

本単元では、「なりきりインタビュー」をまとめの活動として設定する。そのため、新出表現の練習の際にも、対話やインタビューのような状況での課題を設定する。その際にはできるだけ自然な話の流れを意識させる。学習しようとする表現が必要、必然性を伴った表現として定着できるようにさせるとともに、生徒自身が目的をもって学習できるようにさせたい。

○必要な時に即座に表現を口にした、状況に合わせて柔軟に習得した知識・表現を活用する生徒の育成

授業中には1 minute talk のようなルーティンワークやペアワーク、グループワークのように、生徒が英語を使用する場面をできる限り多く設定する。その際には固定したフォーマットを与えず、生徒自身が考えて、選択して表現を使うようにさせる。もちろんエラーも多いが、対話の中で気づいたり、あとで表現を確認したりすることで、それぞれの学習に対する目的が生まれ、学習意欲にもつながると考える。

8. 本時の指導目標

お互いの経験についてインタビューしよう ～今まで〇〇したこと、ある？～

9. 本時の構想

本時は現在完了形（継続用法）の導入にあたる。Teacher talk で導入を行い、1 minute talk へとつなぐ。生徒がどんな話題について話したのかをもとに、本時の表現の導入を行う。自然な流れで生徒が本時の課題をつかめるようにしたい。現在完了形の構造については既に Lesson2 で確認済みなので、ここでは簡単におさえさせる。ever や never は経験を述べたり尋ねたりする際のキーワード的にとらえとし、対話の中で使わせて習熟させたい。その後、全体での Drill 練習を経て、ペアでお互いの経験を尋ね合う活動に取り組みせたい。ペアを変えながら3人～4人とのインタビューを行わせるが、その時の話題はペアを変えるごとに変えて話をさせたい。経験を述べたり尋ねたりするまでに、相手と話題を確認したり、経験を尋ねた後に関連する話を続けたりすることで、自然な対話の中で表現を使うことを意識させたい。また、相手と対話をする際に使用できるのは本時の表現のみならず、既習の多くの表現であることに気づき、それらの表現を繰り返し使用することで、より確かな定着を図ることができると考える。生徒の活動中、教師は観察をしながら、必要に応じてリキャストや支援を行う。活動後は対話した相手の中から一人を口頭で紹介させた後、その級友を紹介する文を書いてまとめさせる。

本時は具体的な評価は行わないが、形成的評価として観察、ワークシートの表記のチェックを行う。言語活動の際に、本時の表現や既習表現を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとしているかどうか、また、表記内容から、現時点でどの程度の既習表現が使えているか等を見取る。個々の評価は単元末の「なりきりインタビュー」や英語での小断、言語知識については、ペーパーテストで見取ることとする。

10. 本時の展開

段階	学習内容及び学習活動	時間	■「学びの本質」とのかかわり
導入	0. 3分前学習 ・英語の歌を歌う。		
	1. あいさつ ・1 Minute Talk	3	■与えられたテーマ等に基づいて即興で対話をする。
	2. Teacher Talk ・聞き取った内容、表現、場面等から本時の言語材料に気づく。	7	■本時の活動の目的、課題を捉える。

お互いの経験についてインタビューしよう
～今まで〇〇したこと、ある？～

展 開	3. Step1 Drill <ul style="list-style-type: none"> 全体で基本表現を確認する。 (パターンPractice) <p>I have been to ～. I have visited ～. Have you ever ～? I have never ～. How many times have you ～?</p>	3	■スライドを見ながら新出表現を練習させる。
	4. Step2 Practice in pairs	15	■課題解決のために必要な新出表現を滑らかに言えるように練習する。
	5. Step3 Challenge お互いの経験について話す準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> 自分で選択した話題について答えを考える。 既習表現や本次の表現を適宜用いてペアと対話をする。 	10	■わかりやすく説明するために必要な表現を考え、説明の練習をする。
	6. Step4 Challenge <ul style="list-style-type: none"> ペアを変えて実際にインタビューを口頭で行う。 	5	■既習事項を踏まえ、本時の表現とともに発話する。
	7. Step5 Writing <ul style="list-style-type: none"> 友人を紹介する文をワークシートに書いてまとめる。 	3	■発話した表現を表記できるか確認する。
終 結	8. Step6 Reflection <ul style="list-style-type: none"> 本時を振り返り、「ワークシート」に記録する。 9. あいさつ	2	■本時の学習でできたことやできなかったこと、疑問等を自分自身で捉える。